

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

国 語

<p>課題分析 指導方法の</p>	<p>関心・意欲・態度については高く、授業規律もしっかりとできている。朝の読書活動なども全学年で積極的に取り組み、習慣化している。一方で、文章の読解能力や表現力には個人差があり、苦手な生徒についても向上できるような指導法の工夫をしている。また、書くことや話すこと・聞くことについても、より顕著な能力差が見られるので、言語活動を重視した授業展開を行っている。</p>	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<p>読解力の向上については、現在行っている朝読書や課題図書の設定などで、本に触れる場面を多く設ける。また、書くことや話すこと・聞くことの活動場面も意識的に設定し、論理的な表現力や説得力のある話し方など、身につけていく。知識・理解についても、日常的に漢字テストを実施したり、ワークの取組を継続的に行い、定着度を測るために小テストを実施したりするなど、より工夫していく。</p>	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発問の工夫により、しっかりと考える場面を設ける。 ・漢字テストを実施することで、学習習慣の定着を図っていく。 ・ワークや国語便覧の写真資料などを積極的に活用することで、視覚的な教材の提示を行い、関心・意欲を高めていく。 ・ワークシートの作成を工夫していく。 ・暗唱テストを行う。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストや確認テストを実施する。 ・単元ごとに意見文の作成や話し合い活動の場面を設けていく。 ・授業内の発表や作品制作を相互に評価し合う場面を設定することで、積極的に活動する工夫をしていく。
	<p>（放課後・休業日） 学力補充教室等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後を利用して、漢字テストや確認テストの再テストを実施し、定期テスト前には質問を受け付ける機会を設定するなどの補充的な学習機会を設ける。 ・長期休業時に学習補充教室を実施する。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

社 会

<p>課題分析 指導方法の</p>	<p>学習についての「関心・意欲・態度」は高い。又、既習事項の確認テストを行っているので「知識・理解」も身に付いている生徒が多い。しかし、「資料を活用の技能」や「社会的な思考・判断」する力が十分とはいえない。学年ごとに段階を踏んで、資料を活用・分析し、自らの考えや知識をもとに、的確に表現できる力をつける指導を行っていきたい。</p>	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの機器を活用し、社会的な事象を具体的に見せることで、関心・意欲を高める。 ・ワークシートを活用し、思考・判断や文章表現力を高める。 ・「知識の定着」を図るために、授業の始まりの問いかけで前回の復習を行う。また授業毎、もしくは単元毎の小テストを実施する。 ・適切な課題による調べ学習、レポート作成等を取り入れるとともに、発表をさせるなどプレゼンテーション能力を高める学習をとりいれる。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な課題を用意し、自分の考えや意見を文章に表現させる。 ・基礎的基本的な内容の定着を図るためにワークシートを活用する。 ・新聞記事や時事問題を取り上げ、社会事象への関心を高める。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な内容の定着を図るためにワークシートを活用する。 ・現在の社会問題に対して、自分なりの考えや意見を文章に表現させる。 ・適切な課題による調べ学習を行い、発表をさせるなどの学習を行う。
	<p>（放課後・休業日） 学力補充教室等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業や定期考査1週間前の期間を利用して、質問教室や学力補充教室を実施する。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

数 学			
課題分析	指導方法の	<p>学習に対するの関心・意欲・態度は高い。課題としては、授業で教わったことがすぐに定着する生徒と、なかなか定着しない生徒の差が激しいことである。1学年は各クラスにおける授業だが、2・3年生においては習熟度クラス別の少人数指導である。希望制であるので、生徒自らの能力にあったクラスと違うクラスで学習を進めているケースがある。そのためにも、教員がそれぞれのクラスにあった授業内容を展開すると同時に、生徒の能力をきちんと把握していくことが重要である。</p>	
授業改善策	具体的な	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な教材を使って、関心・意欲を高める。 ・学習した内容の定着を図るために、プリントを用いた反復練習を適宜行う。また授業毎、もしくは単元毎の小テストを実施する。 	
補充的・発展的な学習指導計画	一 単 位 時	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解かせて、数学的な技能の向上を図る。 ・課題を与え、生徒自らのやり方で問題を解かせる等、他にも様々なやり方があることを確認しながら、数学の問題の解き方に関心を持たせる。 	
	単 元 の 途 中 や 単 元 末	<ul style="list-style-type: none"> ・リピート学習を提出させ、計算の仕方や定着の度合いを確認する。 ・小テストを実施し、単元の内容がどの程度身に付いているかを確認する。 	
	（放 課 後 ・ 休 業 日）	学 力 補 充 教 室 等	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの夏期補習教室の実施。主に基礎学力の向上を図る。 ・テスト一週間前に希望制で補習を行う。
	少 人 数 指 導 の 実 施 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年希望調査を取り、2クラスを3つの少人数クラス(基礎、定着、応用)へと分ける。なお、各学年1クラスのみは2つの少人数クラス(基礎、定着・応用)へと分ける。 ・新しい章が始まる前に少人数クラスのクラス変更希望があれば申し出てもらい、変更を可にしている。 ・希望調査によつての少人数クラス分けなので、クラスが生徒自身の実際の学力と差異がある場合がある。なので、教員側が生徒の実態をきちんと把握し、生徒にあった少人数クラスへと導く声かけをする必要がある。また、教員がコースに合わせた授業を計画どおりに行っていく。 	

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

理 科

<p>課題分析 指導方法の</p>	<p>1年では実験、観察の基礎操作と、実験報告書の作成(スケッチやグラフを含め)が身につけていない生徒がいる。 2, 3年では実験の目的を明確にして実験に取り組むことや自ら考えた実験方法の実践、自然事象の科学的法則の考察等、自らの考えを明確にすることに課題がある。</p>	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<p>1年では実験観察の基礎操作、実験報告書の作成方法等を丁寧に指導していく。 2, 3年は目的の明確化と自らの考えをまとめ、発表するための指導をしていく。</p>	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<p>実験が早く終わったグループに対して別の実験や課題を用意し、取り組ませる。実験結果の検証と考察から、自然事象の科学的法則を発見させる。実験に時間がかかるグループには指導援助していく。</p>
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<p>ワークシート等による問題演習の取り組み。基礎的な内容が十分でない生徒へは個別に対応をしていく。 学習内容と現代の科学技術や科学的課題を結び付けて考察する。</p>
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p>	<p>放課後に実験の補講を行う。定期考査前には質問教室を実施する。</p>

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

音 楽

<p>課題分析</p> <p>指導方法の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師主導の授業ばかりにならないように、“主体的・対話的で深い学び”を生徒が味わえる場面をさらに増やす。そのために、相互評価や自己評価の場面を授業内に設定し、自分たちで課題を意識し向上する雰囲気をつくる。話し合い、教え合いの場面を増やす。 ・美しい音楽を目指し、「中学生ならこの程度」と妥協しないで追求させたい。 ・世界の多種多様な音楽に触れられるようにする。
<p>授業改善策</p> <p>具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をしっかりと理解させた上で、生徒が自分たちで目標に向かって活動を進めていくような場面を増やしていく（合唱のパート練習、器楽のグループ練習等）、相互評価や自己評価の場面を授業内に設定し、自分たちで課題を意識し向上する雰囲気をつくる。 ・生徒の思いや考えを生徒同士で交流し、そのことによって自分の考えを深める場面を増やしていく（話し合い、教え合い等）。 ・音楽性を高める語りかけを欠かさない。 ・世界の多種多様な音楽に触れられるよう、指導計画を改善する。
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p> <p>補充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の際、教師やパートリーダーのそばにおいて活動させる。 ・個人練習の際等に声をかける。 ・個人の進捗を把握する学習カード等を用い、学習状況やつまずいている点を把握し、指導計画に生かす。 <p>発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー的役割を担ってもらう。 ・器楽アンサンブルで、発展的なパートを受け持たせる。
	<p>単元の途中 や単元末</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の進捗を把握する学習カード等を用い、学習状況やつまずいている点を把握し、指導計画に生かす。
	<p>（放課後・休業日） 学力補充教室等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼休みや放課後、長期休業中に必要に応じて補充指導を行う。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

美 術

<p>課題分析</p> <p>指導方法の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりがやりがいを感じながら意欲的に制作に取り組み、達成感を得られるよう指導する必要がある。 ・授業の時間内で制作を終えられるよう生徒が見通しを持って制作に取り組む必要がある。そのためには授業内の作業に充てる時間確保も重要だが、作品の質をより良いものにするためにも導入や解説、鑑賞にかかる時間とのバランスを保つ必要がある。 	
<p>授業改善策</p> <p>具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を行い、生徒の制作状況や進捗に応じて技法や工夫等必要なアドバイスを適宜行う。 ・よりわかりやすい参考作品や例示を行い、完成作品のイメージを持たせてから、作業を段階別に表示してそれぞれの達成期日を定め、見通しを持って制作に取り組むよう促す。 ・説明を簡潔にし、配付資料等で詳細を補う。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標と次回の作業内容を明確に伝える。 ・参考作品や資料を豊富に用意しておき生徒が適宜見られるようにする。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・制作段階別の達成期日と最終的な完成の期限を確認し、見通しを持って計画的に制作を進められるよう促す。 ・こだわりを持たずにただ作業を終えて完成としてしまう生徒も中にはいるので、それぞれの作品を時間内でより良いものにしていき、完成度を高めるよう声かけをする。そのためのアドバイスも丁寧に行う。
	<p>（放課後・休業日） 学力補充教室等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・制作が遅れていたたり、作業が滞っている生徒は、個別に休み時間や放課後を利用したり、作品を持ち帰って作業をさせたりして、全員が学習発表会に向けて作品を完成できるように指導する。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

保 健 体 育

<p>課題分析</p> <p>指導方法の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦手分野における課題克服意識をもてないため、主体的な参加が見られない生徒がいる。 ・ 集団行動や準備体操への意識が低かったり、指示が出ないと動かなかったりするなど、運動に対して主体的に取り組めない生徒がいる。 	
<p>授業改善策</p> <p>具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を克服する手立てを段階ごとに伝える。 ・ ペアやグループで話し合う活動や課題を解決していく活動を組み込み、主体的・協働的な学習が促される授業を展開する。 ・ 始業チャイムの前には、その場に教員がいるようにして始業と同時に準備体操を開始することを徹底する。 ・ 集団行動や準備運動のねらいを明確にして、体育係を中心に自主的に行えるようにする。 ・ 個に応じた目標を設定して、運動技能の向上を図ることで達成感や喜びを味わうことのできる指導を行う。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技の特性を踏まえた上で、毎時の補強運動を継続的に行い、筋力など体力の向上を目指す。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動の楽しさや喜びを味わいながら、多様な練習内容を取り入れて、より高い技能の習得を目指す。 ・ 運動の特性を理解させ、それに必要な技能や体力の向上を目指すとともに、ルール等の知識についても学ばせる。
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適宜、実技テスト未受験者対象に受験を行っている。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

技術・家庭

<p>課題分析 指導方法の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少ない授業数の中で、1時間を大切に課題や実技に取り組ませることが最大の課題である。また、生徒の実態としては、生活体験の少なさから実技を行う際に道具や用具をうまく使えなかったり見通しをもったりして作業することができないことも少なくない。教師が1つずつ作業の仕方やポイントを示して指導していくことが大切であると思われる。 	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初に本時の課題を明確に生徒に提示、説明して、目標をもって授業に取り組ませる。視聴覚機材を有効に活用していく。 ・作品づくりは、完成品を見せたりして完成までのイメージをもたせ、どのような行程を経て仕上がるかの見通しがもてるようにする。 ・安全指導の際、作業で用いる道具等の使い方の説明を丁寧に行う。 ・話し合いや実技など、主体的な学習活動の場を効果的に設定し、生徒同士での教え合いや学び合いを深めることを大切にする。 ・ポートフォリオなどワークシートや、生徒同士のペアワークによる口頭説明での振り返りを利用し、学習のまとめや次の指導に生かす。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の進行状況を把握して作業の早い生徒には次の課題を与えたり、リトルティーチャーを設定し生徒相互の学び合いや教え合いを行わせたりする。 ・作業の進度が遅い生徒については、説明を繰り返したり実演したり見本を見せて補えるところは授業で補うなど、必要に応じて机間巡視の中で個別指導の時間を作る。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業中に工具等の使用法について振り返らせて、工夫したことを発表させる。発表したことは、その後の作業に活かすことができるようにする。 ・作品は全員が完成することを目指し、完成後は作業の様子やできあがった作品について振り返らせる。 ・ポートフォリオなどワークシートの振り返りを活用して、進度を把握する。
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の製作では、作業が遅れている生徒に休み時間や放課後等の時間を活用して作業をさせ、完成に向けて取り組ませる。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

英 語

<p>課題分析</p> <p>指導方法の</p>	<p>学習における「関心・意欲・態度」の能力は非常に高い。「表現」や「理解」などの能力を高めるためには、授業においてコミュニケーションの場面を多く設定することで、「知識」を活用させることが重要である。文法導入時のアクティビティやカードを使った表現練習をさらに発展させ、継続的に指導を行っていく必要がある。</p>	
<p>授業改善策</p> <p>具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあてを明示して、目標をもって授業に取り組めるようにする。 ・ わかりやすく、丁寧な指導を心掛ける。 ・ 言語の知識・理解力をコミュニケーション力に結びつけるために、四技能を効果的に結びつける学習活動を行う。 ・ ペアワークなどコミュニケーション場面を多く取り入れ、授業中に生徒が英語を使う場面を豊富にする。 ・ 書く活動と他の活動を統合的、継続的に取り入れ、表現力を身に付ける。 ・ 振り返りの学習ができる機会を設ける。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数授業のクラス分けを工夫し、英語に苦手意識を持つ生徒に教師の目がよく行き届くようにする。 ・ 机間指導等でフォローするほか、生徒同士の学び合いが生まれるような授業を展開していく。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元のまとめを授業で行った後、小テストなどを行い知識の定着をはかるとともに、定期考査に向けて生徒が自分の知識を再確認できるようにする。 ・ 「書く」活動では、スモールステップの要素を取り入れたワークシートを作成する。
	<p>（放課後・休業日） 学力補充教室等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験の前に放課後の質問教室を必要に応じて実施する。 ・ 夏季休業中に学習教室・補充教室を開く。